

実施年度	実施主体	対象獣種
R8～R9	富良野市鳥獣害対策協議会	シカ

現状・課題

農地部を横断する多くの河川が、農地への鳥獣の主な侵入経路となっている可能性が高いものの、具体的な河川の特定が難しく、被害対策の優先地域や重点箇所の絞り込みができていない状況にある。また、鳥獣による被害が「常態化」しており、出没情報も散在しているため、危機意識の維持や出動判断、重点ポイントの特定が難しくなっている。

事業概要

被害が頻発する農地境界及び主要な移動経路（河川沿い）に、AI検知機能付きネットワークカメラ及び赤外線センサーを配置し、

- ・映像データから加害獣種や数、侵入地点等を特定・GIS上に整理し、捕獲場所を決定、
- ・ICTわなによる効率的な捕獲の実施、捕獲位置・時刻・個体情報をGPS付カメラで収集しGISに統合、
- ・捕獲後の映像データを通じた捕獲による被害減少効果の評価、
- ・蓄積したデータの分析結果を踏まえた罠の再配置

等を実施し、効果的な捕獲体制の構築に加え、投資効果の高い柵設置を実現。

更に、データに基づく対策として、圃場レベルの被害、柵の整備・生息環境管理の状況もGIS上で一元的に可視化するほか、個人毎の捕獲状況の整理、捕獲者がおらず被害が深刻な地域への対応の検討、作物ごとの生育サイクルを踏まえ被害時期を予測した対策にも取り組む。

活用機器 ※交付金活用外の機器を含む

- ・リモートモニタリングシステム（赤外線センサー付きカメラ等）
- ・捕獲通知機器

モデル地区の普及範囲

近隣自治体（上川南圏域等）へ展開

【イメージ】

